



関西大学

大阪都市遺産研究センター

Newsletter

No. 11 2014 年 3 月 20 日

目次

第 6 回大阪都市遺産フォーラム	1
「道頓堀プロジェクト」関連行事の開催	2
関西大学ミュージアム講座「なにわの文化遺産 (8)」	2
関西大学大阪都市遺産研究センター in ナレッジキャピタル	3
新なにわ塾叢書第 6 弾	3
写真展「三村幸一が撮った日本の祭り」開催	3
第 3 回研究例会	4
新刊紹介	4

第 6 回大阪都市遺産フォーラム

大阪都市遺産研究叢書 3 にあたる『大阪の近代—大都市の息づかい』（東方出版刊、2013 年 8 月）の出版を記念して、平成 25 年 11 月 30 日に第 6 回大阪都市遺産フォーラム「『大阪の近代—大都市の息づかい』出版記念フォーラム」が関西大学第 1 学舎千里ホールで開催された。

当センターの大谷渡研究リーダー（本学文学部教授）、橋寺知子研究員（本学環境都市工学部准教授）、相良真理子研究員と、堀田暁生大阪市史編纂所所長が登壇し、当センターで作成した二次元CGをスクリーンに映しながら、活発な意見交換が行われた。スクリーンには、「大阪市と東成・西成両郡における工場分布状況」などの『大阪の近代』に掲載されたものだけでなく、「『北船場』に本社を置いた会社の分布状況（明治40年～大正14年）」「船場地域の業種別工場分布状況（明治25年～40年）」や「大阪の緑被率（明治前期・大正期・現在）」など新たに作成した二次元CGも映された。当日は学内外から多数の来場者があり、新たな研究成果の発表に熱心に耳を傾け、好評であった。閉会後には、これからの研究発表も是非知らせてほしいとの声が多数寄せられた。

当センターでは、引き続き二次元CGを作成すると

もに、現在、大阪大空襲に関する調査を行っており、来年度の研究成果発表に向けて準備を進めている。

(R.A. 相良 真理子)



「道頓堀プロジェクト」関連行事の開催

第4回目となる道頓堀連続フォーラムが、平成25年11月12日に千日前のTORII HALLで開催された。今回のテーマは「芝居町の記憶をたどる」。

第1部の講演「芝居町の記憶をかたる」では、「大阪の劇場大工 中村儀右衛門資料」の入手を新聞報道でお知りになられ、昨秋、センターに来館された中村儀右衛門氏のご子孫である中村博氏が「島之内の風景」と題して、お育ちになった島之内や道頓堀界隈のかつての情景をお話いただいた。また、中村氏のご友人でもある成瀬國晴氏（宝塚大学講師・イラストレーター）「道頓堀とわたし」では、お生まれになった日本橋三丁目を中心に、道頓堀や千日前のことや、中村儀右衛門が大阪の劇場として初めて携わった千日前・横井座のオーナー横井勘市氏のことなど興味深い内容となった。第2部の鼎談では、藪田貫センター長が加わって、中村儀右衛門資料をはじめ、今後のセンターの「道頓堀プロジェクト」へのお二人の期待が話題となった。当日は、中村氏・成瀬氏と親交のある肥田皓三先生がフロアにお越しになられており、鼎談ではコメントをしていただき、まさに「芝居町の記憶をたどる」フォーラムとなった。

今回のフォーラムでは、地元道頓堀の方々だけではな



く、一般の方々にもご参加いただき、定員を大きく超える88名の参加者があった。

道頓堀連続フォーラムに続いて、平成25年12月15日には、大阪歴史博物館の講堂において、第13回にわ歴史シンポジウム「上町台地未来遺産フェスタ」が開催された。このシンポジウムは、エリーニ・ユネスコ協会が主催して毎年行われているもので、今年は、道頓堀開削400年をテーマに、センターとの共催で開催された。第1部の講演では、藪田センター長が『「CGによる明治・大正期の道頓堀の街並み復元」をめぐる』と題して、CG「道頓堀五座の風景」の制作など、センターが進める「道頓堀プロジェクト」について紹介がなされた後、橋寺知子研究員（本学環境都市工学部准教授）「明治・大正期道頓堀の劇場建築の復元」では、中村儀右衛門資料と、昨年行われた中村儀右衛門資料による角座復元が紹介された。また、今回初めて日本演劇学からの視点から中村儀右衛門資料を考えるため、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館副館長の児玉竜一氏（早稲田大学文学部教授）を迎えた。「歌舞伎の演出と大阪の舞台芸術」と題した講演では、歌舞伎の舞台美術における大阪と東京の比較や、中村儀右衛門資料の「大道具帳」の意義について述べられ、第2部のパネルディスカッション「江戸から明治・大正期の道頓堀と芝居」でも、建築学や演劇学の視点から中村儀右衛門資料について活発な議論が行われ、およそ80名の参加者が熱心に聞きいっておられた。

なお、「道頓堀プロジェクト」の関連行事は、サントリー文化財団の研究助成の一環として開催された。

（特別任用研究員 櫻木 潤）

関西大学ミュージアム講座「なにわの文化遺産（8）」

毎年恒例の関西大学ミュージアム講座が、平成25年10月23日から大阪都市遺産セミナー室で開催された。「なにわの文化遺産」をテーマとして8回目を迎える今年には、「日本の写真コレクション」と題する三週連続の講演で、宮本裕次氏（大阪城天守閣研究副主幹）「南木芳太郎と『郷土研究 上方』」、黒田一充研究員（本学文学部教授）「三村幸一と日本の祭り」、富坂賢氏（九州国立博物館学芸部文化財課長）「横山松三郎から小川一真へ 日本の文化財写真の系譜」というラインナップで行われた。近年、歴史資料として注目されている写真資料について、資料としての写真の見方や、保存・データ化

など、新たなテーマでの試みであったが、新鮮で有意義な講座となった。

（特別任用研究員 櫻木 潤）



関西大学大阪都市遺産研究センター in ナレッジキャピタル

平成 25 年 10 月 29 日（火）、当センターと VisLab OSAKA の主催で、『歴史トークショー「CG にみる大阪今昔」』を開催した。会場は、グランフロント大阪（大阪市北区）内にあるナレッジキャピタル・アクティブスタジオである。

第 1 部では「豊臣期大坂図屏風」とそのデジタルアーカイブをテーマに、宮本裕次氏（大阪城天守閣研究副主幹）と内田吉哉特別任用研究員が対談を行った。第 2 部では「道頓堀」と、大正期の芝居町であった町並を復元した CG をテーマに、今井徹氏（道頓堀商店会会長）と藪田貫センター長が対談を行った。

このトークショーでは、当センターが制作したデジタルコンテンツの紹介も行われた。会場内に設置されたタイルディスプレイを使用した「豊臣期大坂図屏風」高解像度画像展示と、林武文研究員（本学総合情報学部教授）およびそのゼミ生が制作した「タブレット PC を用いた道頓堀デジタルコンテンツ」が紹介された。

またこの行事に合わせて、ナレッジキャピタル 3 階アクティブラボで、10 月 23 日から 11 月 6 日の間、林武文研究員が中心となって制作した、大正期道頓堀の復元 CG を展示した。3D メガネで立体視しながらコントローラーで自由に CG 内を歩き回れる展示内容に、多くの見学者が集まった。



（特別任用研究員 内田 吉哉）

新なにわ塾叢書第 6 弾

新なにわ塾とは、大正・昭和時代を中心に、大阪の足跡を「光と影」「栄光と挫折」の両面から振り返る講座を開催し、さらに叢書として刊行することにより、かつて「学問と文化のまち」と言われた大阪の魅力を学ぶ契機とするものである。昨年の新なにわ塾叢書第 5 弾「大阪に東洋 1 の撮影所があった頃」に引き続き、叢書第 6 弾「再び大阪がまんが大国に蘇る日」が平成 26 年 3 月末に刊行する見通しである。平成 25 年 9 月 3 日から 10 月 7 日にかけての 5 回講座「まんが大国・OSAKA を語ろう」を収録したものである。なかには、「まんがのふるさと・大阪」「ぼくの貸本劇画時代」「天才・手塚

治虫とその時代」「少女まんが・パワー世界へ」「関西は今でもまんが情報発信基地」など、漫画業界に活躍している有名人の体験談、エピソードが勢ぞろいで、戦後まんが 70 年の歴史とともに、大阪はまんがと縁が深く、「まんが大国」になった軌跡が語られている。（P.D. 王海）



写真展「三村幸一が撮った日本の祭り」開催

平成 25 年 11 月 16 日から 29 日まで、大当センター 1 階セミナー室において、関西大学大阪都市遺産研究センターと大阪歴史博物館の主催で、「三村幸一が撮った

日本の祭り—大阪歴史博物館所蔵写真から—」を開催した。

現在当センターでは、大阪歴史博物館が所蔵する明治

36（1903）年生まれの大阪の写真家、三村幸一が日本各地で撮影した、1950年代～60年代の祭りや民俗行事の白黒ネガフィルムを、保存のためにデジタル化している。本写真展はその成果の中から、選りすぐりの60行事114点を展示した。

11月16日（土）と28日（木）には、黒田一充研究員（本学文学部教授）による展示解説が行われ、展示写真とその前後に撮影された写真も含めて紹介された。

期間中には展示写真の人気投票が行われ、投票総数169票のうち10票を獲得して、「天神祭・船渡御」が一位となった。11日間の会期中、371名の人々が会場を訪れ、現在は見る事が出来なくなった活気あふれる

祭りの様子や、当時の街並みなどを楽しんでいた。

（R.A. 吉野 なつこ）



第3回研究例会

「水都大阪」班では、写真資料をテーマとする研究プロジェクトが進められている。1つは大阪歴史博物館所蔵「三村幸一撮影写真資料」の調査であり、もう1つは当センター所蔵「牧村史陽氏旧蔵写真」のデジタルアーカイブ化である。写真を歴史資料として扱う研究はまだその蓄積が浅く、セオリーが確立されていない。一方で近年のデジタル技術の進歩にともない、写真資料の扱い方は多様化している。そこで本研究例会では「写真コレクションの保存と公開 ―データベース化に向けて―」

というテーマのもとに、当センターでの写真コレクション研究の事例を題材にして議論と検討を行った。

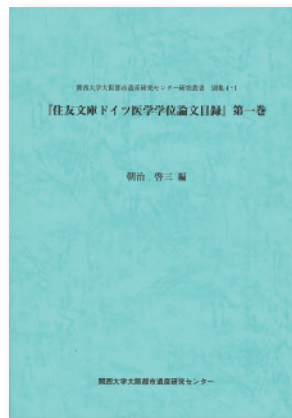
「三村幸一撮影写真資料」については黒田一充研究員が、「牧村史陽氏旧蔵写真」については内田吉哉特別任用研究員がプレゼンテーションを行い、それぞれ富坂賢氏（九州国立博物館学芸部文化財課長）のコメントを受けつつ、今後の研究の展望について討議した。

（特別任用研究員 内田 吉哉）

新刊紹介

この度、当研究センターより大阪都市遺産研究叢書別集4-1『住友文庫ドイツ医学学位論文目録』第一巻』が刊行された。

本書は、大阪府立図書館に所蔵される住友文庫のうち、これまで公開されていなかったドイツ医学学位論文について調査を実施し、その成果に基づいて目録を作成・出版したものである。



朝治啓三編『住友文庫ドイツ医学学位論文目録』第一巻 大阪都市遺産研究叢書 別集4-1』、関西大学大阪都市遺産研究センター、2013年9月30日

関西大学大阪都市遺産研究センター NewsLetter No. 11 2014年3月20日発行

発行・編集 関西大学大阪都市遺産研究センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学博物館内

TEL 06-6368-0095 FAX 06-6368-0092

<http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/osaka-toshi/>

mail osaka-toshi@ml.kandai.jp

